

## 平成25年度 ふるさとむら活動研修会を3地区で開催

平成25年9月29日(日)多可郡多可町菜の花エコプロジェクト地区(菜の花播種作業)、10月19日(土)朝来市上八代地区(黒大豆枝豆収穫作業)、11月3日(日)淡路市五斗長地区(古代米収穫作業)において農村ボランティア活動研修会を開催しました。農村ボランティアの参加者数は、菜の花エコプロジェクト地区32名、上八代地区35名、五斗長地区30名でした。

今回の「ふるさと交流だより」は、活動研修会に参加されたボランティアの方の感想文を紹介します。今後のふるさとむらでの活動の参考にしてください。

### <菜の花エコプロジェクト地区活動研修会に参加して> 菜の花の種って小さいね!

9月29日の日曜日、多可町の“菜の花エコプロジェクト地区”で行われた菜の花の播種作業のボランティアに参加しました。但馬方面には観光を兼ねて何度か行ったことがありましたが、多可町は初めての訪れる地。三宮を出発して一時間半後、山々を目の前にしてバスから下りた瞬間、「空気が美味しい!」と思わず大きな深呼吸をしました。

種まき作業は、500mmのペットボトルの底に小さな穴を開けた手作り容器の中に直径1ミリ程度の種を入れ、畑の畝沿いをゆっくり歩きながら容器をリズムカルに振るといふものです。種を握ってまく方法もあるでしょうが、参加者が退屈しないよう農家の方が工夫してくれたのかなあと感じ、感謝!感謝!油断するとすぐに播種間隔がまばらになるため、手元の集中力を切らさずに畑を何往復かすると、意外とヘトヘトになりました。

また、農家の方が話し好きでダジャレ好きという意外な一面も見ることが出来ました。

来年の春に菜の花が元気に咲き乱れていることを願い、機会があれば農作業のお手伝いとダジャレを聞きにこの地を訪れたいと思います。

(西宮市 上村 雅也 さま)



菜種の播種法の説明



手作り播種器へ種子の充填



谷上げ・碎土・播種の分業

9月29日新しくふるさとむらに仲間入りした多可町の菜の花エコプロジェクトに参加させていただきました。絶好の秋晴れの下、菜の花の種まきをしました。本当に小さな小さな種なので、まずは、こぼさないように計量することからしました。ペットボトルの底に穴があいていて種が自然に出るといふ考えは、なかなかグッドアイデアだと思いました。畝の形成まで地元の方がして下さっていましたが、参加者全員一生懸命種をまき、土ならしをし、何とか無事に終える事ができました。

来年の春には、あたり一面黄色のじゅうたんになるの楽しみに帰路につきましたが、又機会があれば、ぜひ参加したいと思いました。貴重な体験をさせていただいたことに感謝です。久しぶりにおいしい空気を吸って身も心もリフレッシュできました。ありがとうございました。

(尼崎市 田中 寛・和子 さま)



畝間の谷上げ作業



トラクター等農業機械の説明



菜種油製品の紹介

＜上八代地区活動研修会に参加して＞ 枝豆用の葉取作業、吊下げた魚を捌く姿に似ているね！

私は自然が好きです。都会暮らしで身近に自然はありませんが、登山好きの父の影響を強く受けました。社会人になってから、何か生産的なことができたか…と思い農業に興味を持ちました。でもどうすれば良いんだろう？そんなとき、農村ボランティアを知りました。漠然としたイメージだけではなく、実体験を通して学べば具体的な目標や課題が見つかるかもしれない。そんな思いで2013年に会員登録しました。

朝来市上矢代は4か所目の参加です。今回、黒大豆の葉取り作業と枝豆の選別・カッティング（端を切る）作業に携わりました。人の手を通して商品になっていく様を間近で見ることができました。ふるさとむらの方たちから丁寧な指導を受け、また他愛のないお喋り（もちろん手は動かしながら！）もしながらあっという間に一日が終わりました。特産のピーマンと黒大豆とお米を使った昼食もとても美味しかったです。

貴重な体験を有難うございました。

（大阪市 杉原 千英 さま）



地区の概要説明



黒大豆枝豆の葉取作業



さやの選別・カッティング作業

農村ボランティアは、今回が2回目「枝豆の葉取作業」を想像しながら参加した。集合時間に合わせボランティアが次々と集まり、大型バスの到着で参加者が揃う。皆さん慣れた様子。

受け持った作業は、ビニールハウス内で葉取作業。枝豆（黒）の太い株を手に取り、葉の付け根を下からちぎる作業を続けた。農家の皆さんには、ひんしゆくものだが久々の農作業で心地よい疲れと達成感を味わった。

昼食の枝豆入りおにぎりと豚汁は絶品だった。

意見交換で村の代表と区長のひととなり・リーダーシップ、村の一体感が感じた。ボランティア一行の帰宅後も集落の皆さんは、枝豆のカット作業に勤まられており、仲間3人で少しばかり手伝い。

印象に残ったのは、むらの代表が「今度サプライズを用意して待ってます。」の言葉。次のボランティアも都合がつけば、場所を選ばず参加したい。

（豊岡市 松本 昭義 さま）



昼食メニュー等の紹介



ピーマンの選別・袋詰め作業



枝付枝豆の仕上げ作業

＜五斗長地区活動研修会に参加して＞ “ザク” “ザク” とノコギリ鎌で稲を刈取る音の心地よさ！

淡路市五斗長地区のふるさとむらに伺い、稲刈りの作業を行いました。今日は天気があまり良くなく、曇っていました。いつ雨が降るかわからない天気でしたが、ボランティアに参加したみなさんと協力してお昼までに終わらせることができました。稲刈りでは、カマを使い刈っていくことや稲束の結び方、干し方をなどを教わりました。

私は現在、兵庫県立農業高等学校に行っています。なので、この稲刈り作業は学校でも生かせると思うし、これからの農業にも知っておくと役に立つと思いました。農村ボランティアに参加するのは初めてでしたが、参加している皆さんが話しかけてくれたので、とても楽しく作業ができました。これからもたくさんボランティアに参加し、農業の事はもちろん、人とのコミュニケーションの取り方なども学んで行きたいです。一日楽しい時間をありがとうございました。

（神戸市 源田 美咲 さま）



オリエンテーション



一束の刈り方・置き方の指導

淡路市五斗長に伺い、古代米の収穫を行いました。五斗長は、私の地元とは違い、見渡す限り緑が広がっていて、とてもどかでした。今回の作業は、古代米をノコギリ鎌で刈り、わらで結び、さおに掛けるという作業でした。鎌で刈るとき、普段は行わない姿勢なので腰が痛くなり大変でした。古代米は、株も大きいので鎌で刈るのにも一苦労でした。ですが、地域の方など他の参加者の方から「頑張れ」などの言葉や「こういう風にすると楽にできるよ」などのアドバイスをうけ、元気をもらいました。わらで結う作業では、不器用な私に「こうやってやるんよ」と優しく教えてくださいました。予定では午後も続く作業を、皆さんの協力もあって午前中で全て終わらすことができました。

私は現在、兵庫県立農業高等学校に通っています。これから授業や実習などでもっと農業に関わっていき、今の若い人達にも農業に接してもらえるようにどうすればいいか考えていきます。若い人達から農業に関する偏見などが無くなってほしいです。今日一日とても貴重な体験をさせていただきました。とても楽しかったです。ありがとうございました。次回も機会があれば参加したいです。 (神戸市 狩野さくら さま)



刈る人・束ねる人の分担作業



稲束のはざ掛け作業

私がこのふるさとむらボランティアに参加しようと思ったのは、大学の授業で「農業と経済について」研究していて、実際に農家へ訪れ、農家の方の生の声を聞きたいと思い、機会を探っていた所、ネットで県の農政課のページで見つけ参加したいと思ったのがキッカケです。淡路島での農業や過疎化といったテーマに興味をもっていたので、交通費もかからず参加できるのでとても素晴らしい企画に思えました。

実際に参加しました感想としましては、まず、農作業自体経験が無く、一からのスタートでしたが、分かりやすい作業で楽しく始めました。しかし、1時間が経過した頃から腰が痛くなって、最後辺りにはヘトヘトになっていました。30人参加しており、しかもたった1反半分の土地でもこれだけの労力なので、機械化されていないと農業はこんなにもしんどいのかを実感しました。作業の途中で、現地の農家の方や参加者の方と会話ができとても楽しかったです。最初バスに乗った時は、他の参加者の方と交流ができず不安でしたが、農作業を共同で行うことで仲間意識が芽生えることができたことに感謝しております。

作業が終わり、昼食の時、作業中に仲良くなれた方と談笑しながらおいしい古代米で作ったカレーを食べて幸せでした。都会育ちの私でも初めての農作業で農業の魅力を知ることができました。

しかし、魅力を知るとともに、農業が重労働であることを思い知り、また、今日もでしたが天候に左右されたりと大変であることも実感しました。 (神戸市灘区 横山 大祐 さま)



刈取り作業



結束作業



組立・はざ掛け作業

地元で言う「殿様日和」に急かされて「刈取り」「結束」「組立・はざ掛け」が急ピッチで完了！

11月3日(日)淡路市ふるさとむら「五斗長地区」で実施された古代米収穫作業のボランティア活動に参加してきました。当日は、あいにくの曇り空、いつ雨が降ってもおかしくない状況の中、12アール程の田んぼに高々と成長した古代米の稲を、鎌を使って手で刈る人、稲を乾燥させる「はざ掛け」のため6株ずつ刈った稲を束ねる人に分かれての作業でした。

私自身、稲を刈る作業は、20年ぶりで、身体がついてこれるか心配だったのですが、なんのその、最初は要領が掴めずなかなか作業が進まなかったのですが、コツを掴むと段々夢中になり、疲れも忘れ、無口で稲を刈っていました。途中稲を束ねる作業もしたくなり、地元の人から丁寧に手ほどきを受け作業を行ったのですが、なかなか上手にできず3~4束しただけで断念し、また刈る作業に戻ってしまったのですが、稲を全て刈り終わった後、再度、束ねる作業に挑戦、自己流で束ねていきましたが後で、稲束がほどけていないか心配でした。

午前中で全ての作業が終わってしまったので、午後は、地元の人たちが作ってくれた、すごく美味しかった古代米カレーを食べた後は、地元の人から五斗長地区の概要、ふるさとむらの活動、五斗長垣内遺跡の説明がありました。五斗長の歴史、生まれ育った地域の活性化に向けて、集落全員で地域づくり活動に取り組んでいる話を聞き、今現在、農山漁村では、少子高齢化とか様々な問題を抱えている中で、五斗長の皆さんが生き生きとして、まだまだ若い者には負けられないって感じで、大変感心しました。

お米作りの大変さを実感し、いつも美味しいものが食べられるのは、農家の人達が精魂込めて作物を作られているからだ感謝しながら、また機会があれば、今度は、大きくなった息子と家族一緒でお手伝いさせて頂きたいと思います。  
(豊中市 山田秀行 さま)



五斗長垣内遺跡の説明



五斗長鉄器工房外観



鉄器工房内の紹介

編集・発行 (公社)兵庫みどり公社 兵庫楽農生活センター 楽農交流課 農村ボランティア事務局

所在地 : 〒651-2304 神戸市西区神出町小束野 30-17  
電話 : 078-965-2651 FAX : 078-965-2653  
E-mail : koryu@forest-hyogo.jp H P : <http://hyogo-rakunou.com/nousonbora/>